



コミュニティサイクルのすゝめ

前橋工科大学工学部社会環境工学科 4年 藤井 諒 (地域・交通計画研究室)

コミュニティサイクルとは、環境にやさしく健康にもよい自転車を使った新しい交通システムです。従来はレンタサイクルが一般的でしたが、近年は多くの都市でコミュニティサイクルの導入が進んでいます(2013年12月現在、全国の54都市で本格導入。国土交通省調べ)。レンタサイクルとコミュニティサイクルの違いは、図1に示すように都市内に設置された複数のサイクルポートであれば自由に貸し出し・返却が可能な点です。またレンタサイクルは貸し出し時間の制限が設けられていますが、多くのコミュニティサイクルはいつでも利用可能です。

コミュニティサイクルは鉄道やバスなどの公共交通機関の補助交通機関としての役割を担っており、その導入効果としては、まちなかの回遊性向上、都市内観光の増加(アーバン・ツーリズム)、放置自転車や違法駐輪の削減、CO₂削減による環境改善などがあります。群馬県内でコミュニティサイクルを導入しているのは高崎市の「高チャリ」があります(写真1)。「高チャリ」は、高崎駅の西口エリアを中心に全部で16のサイクルポートが設置されており、利用料金は無料で買い物やまちなか観光などに利用されています(9時から22時まで利用可能)。このように多くの都市で導入が進んでいるコミュニティサイクルですが、導入を進めるに当たってはいくつかの課題もあります。最大の課題は自転車に関係している交通事故の増加です。表1は、人口10万人当たりの自転車乗用中の死傷者数の都市別順位(全国289都市)を表したものです。群馬県内では前橋市が9位、高崎市が21位と全国の中でも上位を占めていることが分かります。その主な理由としては自転車レーンの未整備にあります(写真2、国土交通省HP)。自転車利用者は歩道や車道を走行しますが、自転車対歩行者・自転車対自動車の事故が群馬県内でも年間に3千件以上発生しています。自転車による交通事故を削減するためには、自転車レーンの設置が必要となります。全国で自転車レーンの設置が進んでいる県としては、栃木県の115.0kmが最長であり、次いで神奈川県36.2km、長野県22.2km、東京都14.0kmとなっており、残念ながら群馬県は全くの未整備状態です(2012年度末現在、警察庁調べ)。

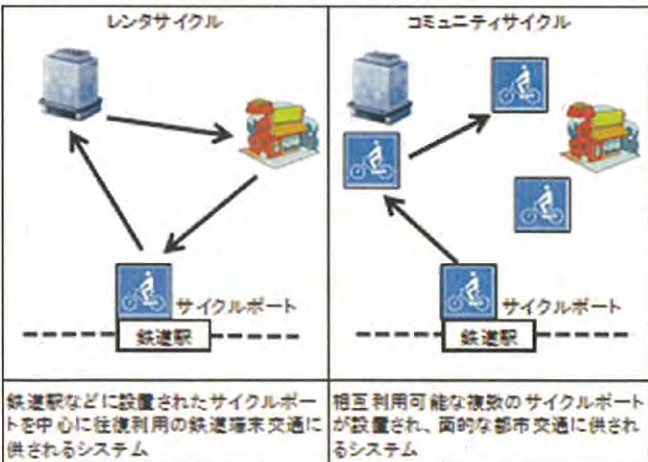


図1 レンタサイクルとコミュニティサイクル

コミュニティサイクルの導入に当たっては、事業方式の決定(行政や民間)、サイクルポートの設置や維持管理に伴う費用負担など検討すべき多くの課題がありますが、交通やまちづくりの課題を解決するための一つの手段としての可能性を秘めていますので、群馬県内の多くの地域での導入を期待しています。



写真1 高崎市のコミュニティサイクル(高チャリ)



写真2 自転車レーン

表1 自転車乗用中の死傷者数

	順位	死傷者数
前橋市	9位	265人
高崎市	21位	233人
太田市	59位	192人
伊勢崎市	63位	190人
桐生市	90位	175人

2003年～2012年までの平均値
 人口10万人当たりの死傷者数(全国289都市)

